



Microsoft Hyper-V 2012 および Hyper-V 2012 R2 向け  
Dell™ DR2000v の導入

デルエンジニアリング  
2014年7月

## レビジョン

日付	説明
2014 年 7 月	初版発行

本書は、情報の提供のみを目的としたものであり、誤植や技術的な誤りを含む場合があります。本書の内容は現状のまま提供されるものであり、明示的または暗黙的を問わず、いかなる内容も保証しません。

©2014 すべての著作権は Dell Inc. にあります。Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁止されています。詳細についてはデルへご連絡ください。

本書に記載されているデル製品に適用される製品保証は、<http://www.dell.com/learn/us/en/19/terms-of-sale-commercial-and-public-sector> でご覧いただけます。本書で説明されるネットワークリファレンスアーキテクチャのパフォーマンスは、導入条件、ネットワーク負荷などに応じて異なる場合があります。読者の利便性を考慮し、リファレンスアーキテクチャにはサードパーティ製品が含まれている場合があります。そのような第三者の製品の包含は、必ずしもデルがそれらの製品を推奨しているとは限りません。詳細については、デルの担当者にお問い合わせください。

本書で使用されている商標:

Dell™、Dell のロゴ、Dell Boomi™、Dell Precision™、OptiPlex™、Latitude™、PowerEdge™、PowerVault™、PowerConnect™、OpenManage™、EqualLogic™、Compellent™、KACE™、FlexAddress™、Force10™、および Vostro™ は Dell Inc. の商標です。本書では、その他の Dell の商標が使用される場合があります。Cisco Nexus®、Cisco MDS®、Cisco NX-OS®、およびその他 Cisco Catalyst® は Cisco System, Inc. の登録商標です。EMC VNX®、および EMC Unisphere® は EMC Corporation の登録商標です。Intel®、Pentium®、Xeon®、Core® および Celeron® は、米国およびその他の国における Intel Corporation の登録商標です。AMD® は Advanced Micro Devices, Inc. の登録商標です。AMD Opteron™、AMD Phenom™、および AMD Sempron™ は Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。Microsoft®、Windows®、Windows Server®、Internet Explorer®、MS-DOS®、Windows Vista®、Active Directory® および Hyper-V® は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Red Hat® および Red Hat® Enterprise Linux® は、米国および / またはその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。Novell® および SUSE® は、米国その他の国における Novell, Inc. の登録商標です。Oracle® は Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。Citrix®、Xen®、XenServer® および XenMotion® は、米国およびその他の国における Citrix System, Inc. の登録商標または商標のいずれかです。VMware®、Virtual SMP®、vMotion®、vCenter® および vSphere® は、米国またはその他の国における VMware, Inc. の登録商標または商標です。IBM® は International Business Machines Corporation の登録商標です。Broadcom® および NetXtreme® は Broadcom Corporation の登録商標です。QLogic は QLogic Corporation の登録商標です。本書では、その他の商標および商号が使用されている場合がありますが、これらは商標および / もしくは名称を所有する組織、またはそれら組織の製品のいずれかを参照するためのものであり、それぞれの所有者が所有権を有します。それらの商標や会社名は、一切デルに帰属するものではありません。



## 目次

レビジョン.....	2
エグゼクティブサマリ.....	4
1 仕様、制限事項、および前提条件.....	5
2 ローカル Hyper-V ホストでの導入.....	7
2.1 DR2000v の初期セットアップと設定.....	15
2.3 物理 DR Series システムへの DR2000v の登録.....	23
3 リモート Hyper-V ホストでの導入.....	28
4 DR Series システムクリーナのセットアップ.....	30
5 重複排除、圧縮、およびパフォーマンスの監視.....	31
A サポートされているコマンドレット.....	32
A.1 コマンドレット:New-DR2000v.....	33
A.2 コマンドレット:Repair-DR2000v.....	34
A.3 コマンドレット:Remove-DR2000v.....	35
A.4 コマンドレット:Stop-DR2000v.....	36



## エグゼクティブサマリ

本書は、仮想 DR Series システムである Dell DR2000v を Microsoft Hyper-V 2012 および Hyper-V 2012 R2 に導入する方法についての情報を記載しています。本書はクイックリファレンスガイドであり、DR Series システム導入のベストプラクティスがすべて記載されているわけではありません。

データ管理アプリケーションのベストプラクティスホワイトペーパーに関しては、<http://www.dell.com/support/home/us/en/04/product-support/product/powervault-dr2000v> で DR Series マニュアルを参照してください。

**メモ:** 本書で使用されている DR Series システムおよびスクリーンショットは、使用されている DR Series システムのバージョンに応じて多少異なる場合があります。



# 1 仕様、制限事項、および前提条件

次のリストは、Dell DR2000v に固有の制限事項と要件を説明するものです。

サポートされる Hyper-V バージョン、仮想環境要件、およびその他の情報についての詳細は、『Dell DR Series System Interoperability Guide』(Dell DR Series システム相互運用性ガイド)を参照してください。

- 現在の DR2000v バージョンは、グローバルビュー管理ユニットとして機能し、登録先である物理 DR Series システムによって管理されます。
- DR2000v の MTU 設定は変更せずに、システムのデフォルト値である 1500 のままにしておく必要があります。
- DR GUI 使用状況メニューには、DR2000v に関連する統計情報だけが表示され、このメニューからは基盤であるホスティング Hyper-V プラットフォームの情報は参照できません。
- DR アラートとイベントは DR2000v にのみ適用され、基盤であるホスティング Hyper-V プラットフォームのアラート / イベントは処理されません。
- ハードウェアの正常性はホスティングプラットフォームによって管理されるため、DR2000v では表示されません。
- DR2000v システムは別の DR2000v システムのレプリケーションターゲットとしては使用できませんが、物理 DR Series システムのレプリケーションターゲットとすることは可能です。
- バックアップ / 復元のパフォーマンスは、基盤となるハイパーバイザーハードウェアのパフォーマンスに依存します。
- これはバックアップストレージデバイスであることから、Hyper-V を介してこの仮想マシンのチェックポイント(つまり、スナップショット)を有効化しないことを強くお勧めします。これは、DR2000v がスナップショットから復元された場合に内部データの不整合の原因となる可能性があることが理由です。

## Hyper-V の前提条件

- Hyper-V ホストには Windows.NET Framework 4.5 以上をインストールする必要があります。  
<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=30653>
- Hyper-V ホストには Windows PowerShell 4.0 以降をインストールする必要があります。  
<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=40855>
- DR2000v を導入するには、管理者ユーザー権限を持っている必要があります。



## ライセンス

- DR2000v システムは、認証の対象となる物理 DR Series システムに評価ライセンスまたは永続ライセンスがインストールされていることを必要とします。
- DR2000v が登録される物理 DR Series システムを DR2000v のライセンスサーバーとして使用するには、物理 DR Series システムで DR Series ソフトウェアバージョン 3.1 以降を実行する必要があります。

## CLI コマンド

- 『DR Series Command Line Reference Guide』(DR Series コマンドラインリファレンスガイド)で説明されている仮想マシン CLI コマンドに加え、DR2000v でのみ実行できる 3 つの追加コマンドがあります。これらのコマンドと関連する使用法は次のとおりです。

### **virtual\_machine --update [--host <ip address | hostname>]**

[--name <admin name>]

[--email <e-mail address (e.g., name@company.com)>]

[--company <text>]

[--comments <text>]

### **virtual\_machine --register --host <ip address | hostname>**

[--name <admin name>]

[--email <e-mail address (e.g., name@company.com)>]

[--company <text>]

[--comments <text>]

### **virtual\_machine --unregister [--force]**

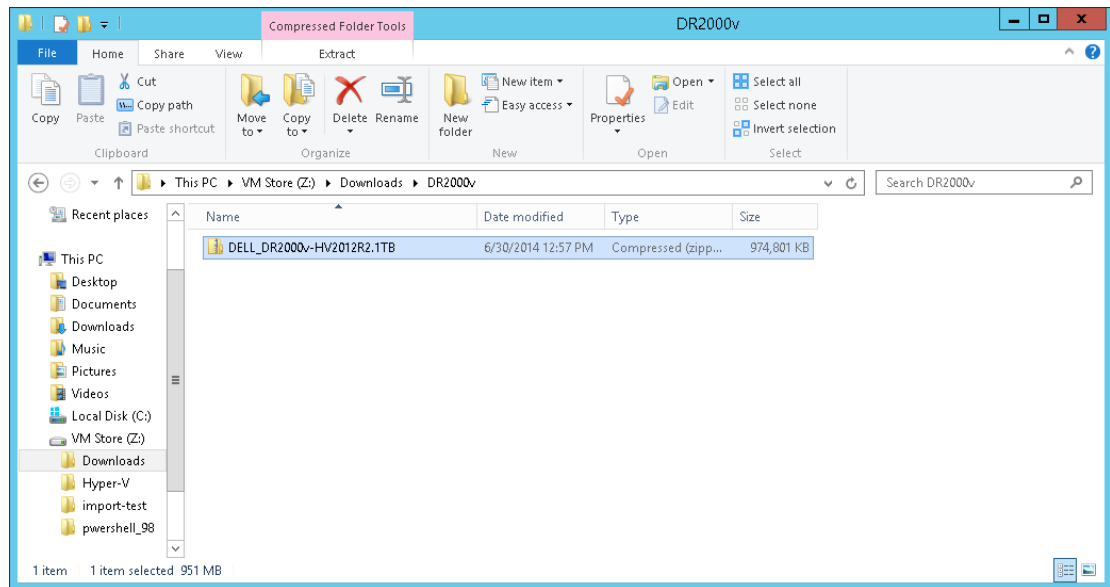


## 2 ローカル Hyper-V ホストでの導入

次の手順は、ローカル Hyper-V ホストに DR2000v を導入する方法を説明しています。

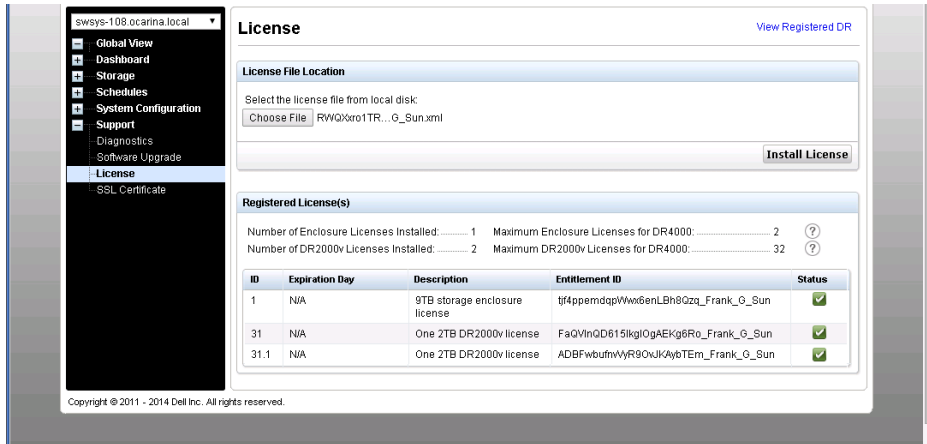
1. DR2000v インストールパッケージを取得して、Hyper-V ホスト、またはお使いのネットワークからアクセスできる別のユニットに保存します。このパッケージは **zip 圧縮** フォーマットになっています。

また、DR2000v ライセンスも入手する必要があります。永続ライセンスは物理 DR Series システムにインストールする必要があります。仮想システムが正常に導入され、初回起動が行われた後は、この物理 DR Series システムに登録する必要があります。

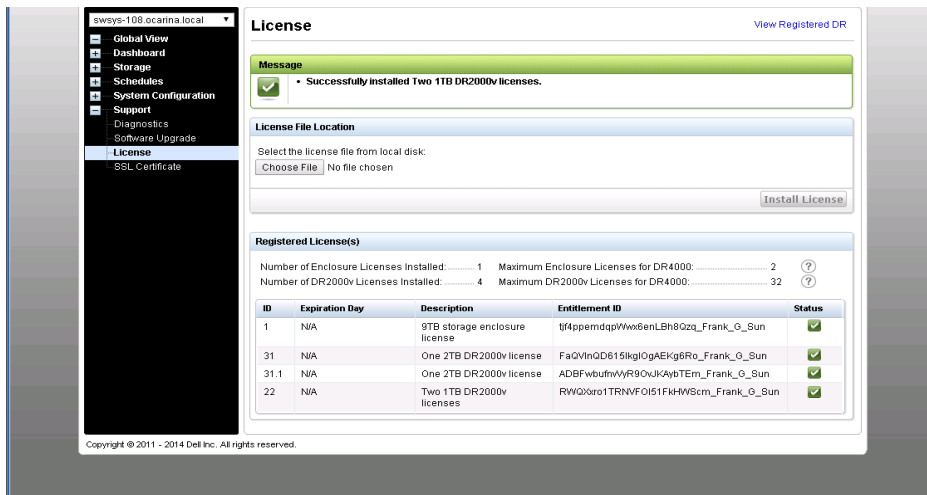


2. 永続的なライセンスについては、DR2000v が登録される DR Series システムにライセンスをインストールする必要があります。物理 DR Series システムの GUI の **Support**(サポート) > **License**(ライセンス) で **Choose File**(ファイルの選択) をクリックしてライセンスファイルを検索してから、**Install License**(ライセンスのインストール) をクリックします。

ライセンスファイルの選択後、ライセンスページにライセンスファイルの場所と登録されたライセンスの情報が表示されます。

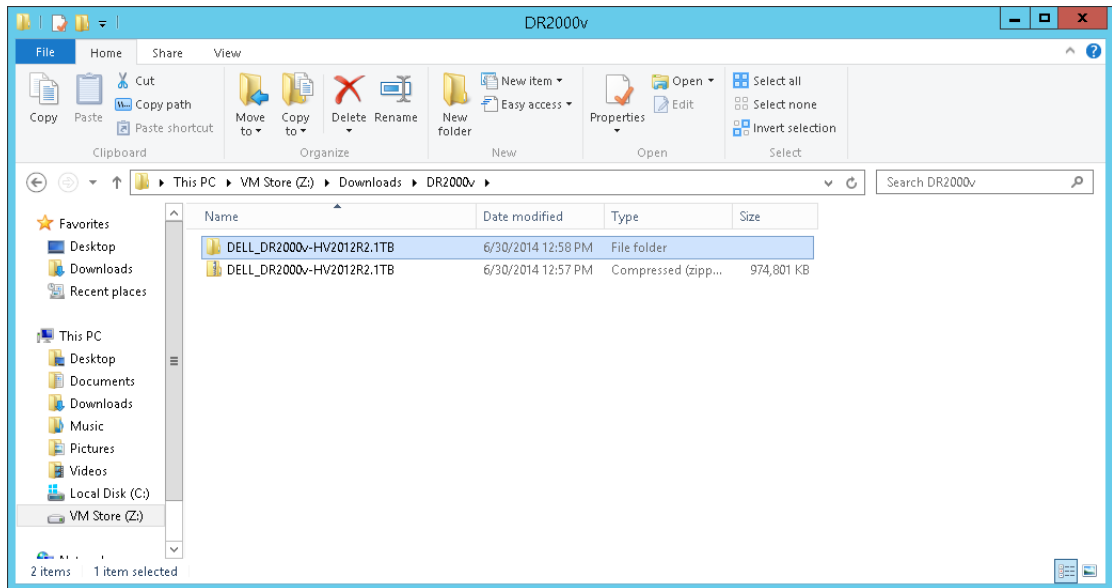


Install License(ライセンスのインストール)をクリックしてライセンスが正常にインストールされたら、ライセンスページに成功通知と登録されたライセンスの情報が表示されます。

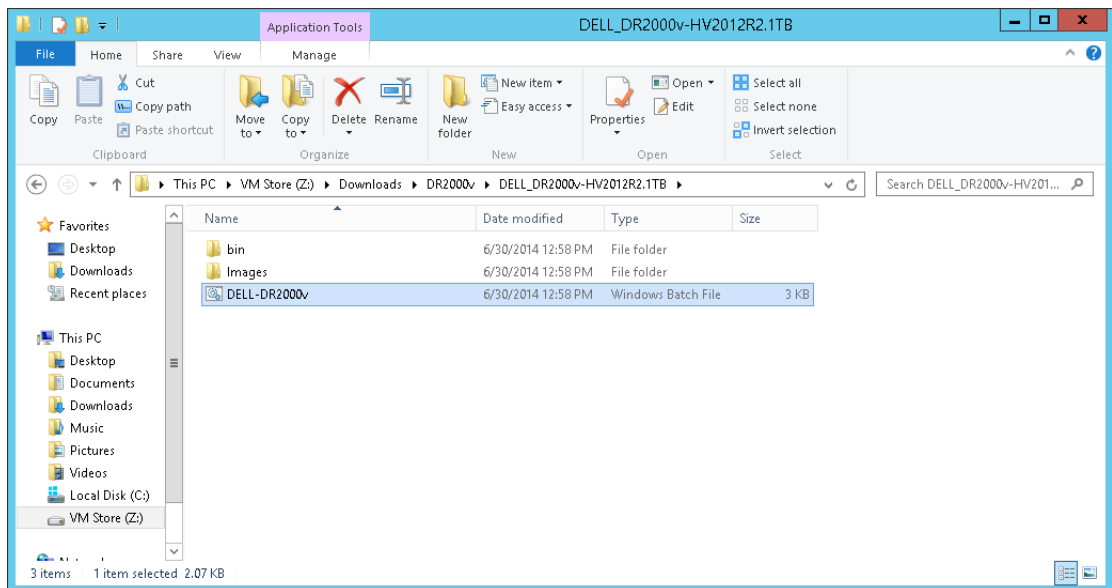




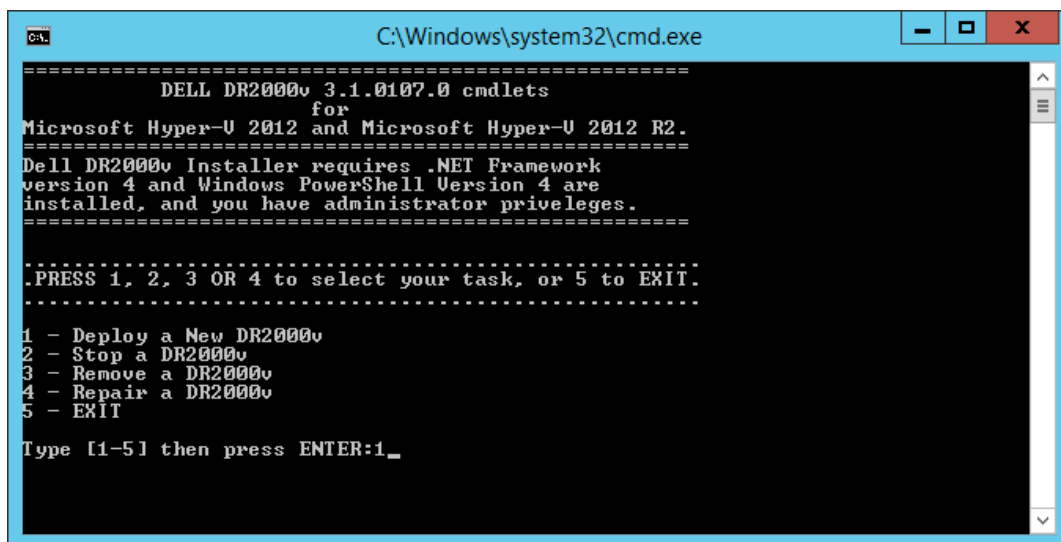
- 特定の Hyper-V プラットフォーム用の DR2000v インストールパッケージ(.ZIP ファイル)を解凍します。



- 解凍されたフォルダを参照し、**DELL-DR2000v.bat** バッチスクリプトを右クリックして **管理者として実行** を選択します。

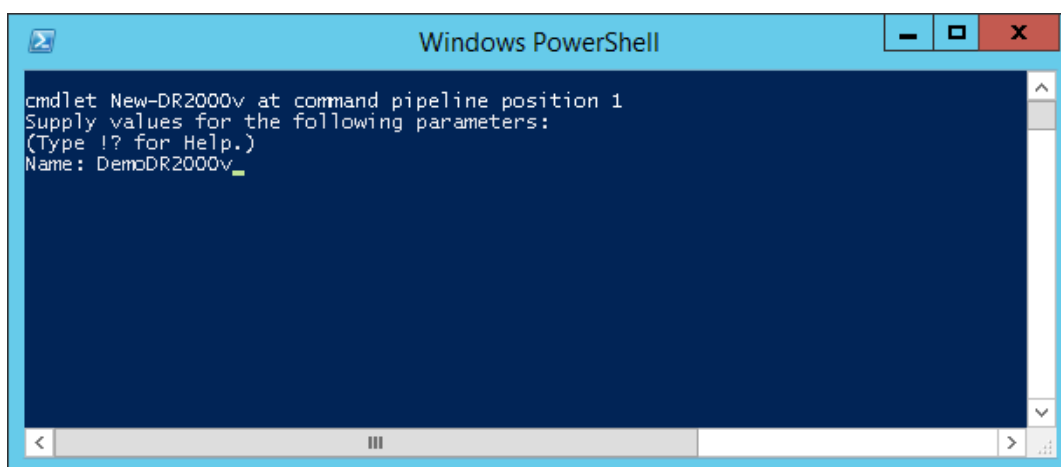


- ローカル Hyper-V ホストに新しい DR2000v インスタンスをセットアップするには、cmd ウィンドウに「1」と入力して <Enter> を押します。



```
=====
DELL DR2000v 3.1.0107.0 cmdlets
for
Microsoft Hyper-U 2012 and Microsoft Hyper-U 2012 R2.
=====
Dell DR2000v Installer requires .NET Framework
version 4 and Windows PowerShell Version 4 are
installed, and you have administrator privileges.
=====
.PRESS 1, 2, 3 OR 4 to select your task, or 5 to EXIT.
=====
1 - Deploy a New DR2000v
2 - Stop a DR2000v
3 - Remove a DR2000v
4 - Repair a DR2000v
5 - EXIT
Type [1-5] then press ENTER:1_
```

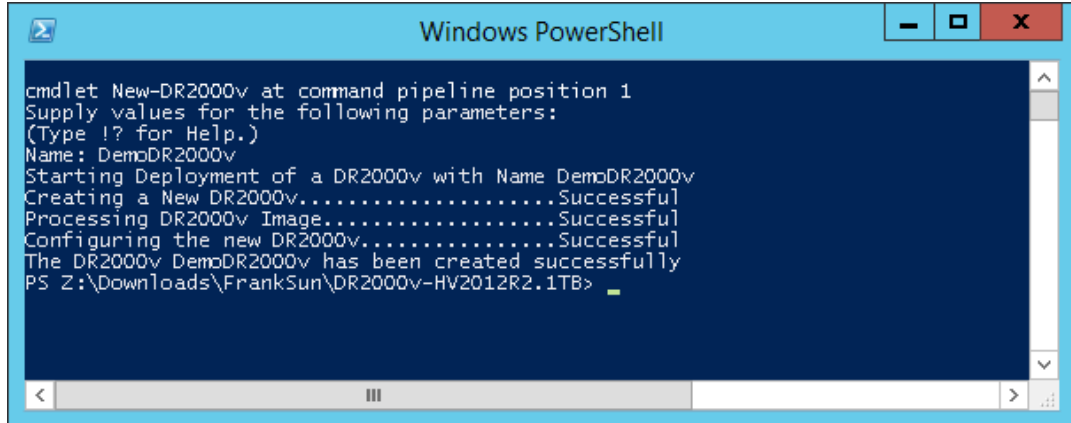
Windows PowerShell ウィンドウが表示され、仮想マシン名の入力を求めます。



```
cmdlet New-DR2000v at command pipeline position 1
Supply values for the following parameters:
(Type !? for Help.)
Name: DemoDR2000v_
```

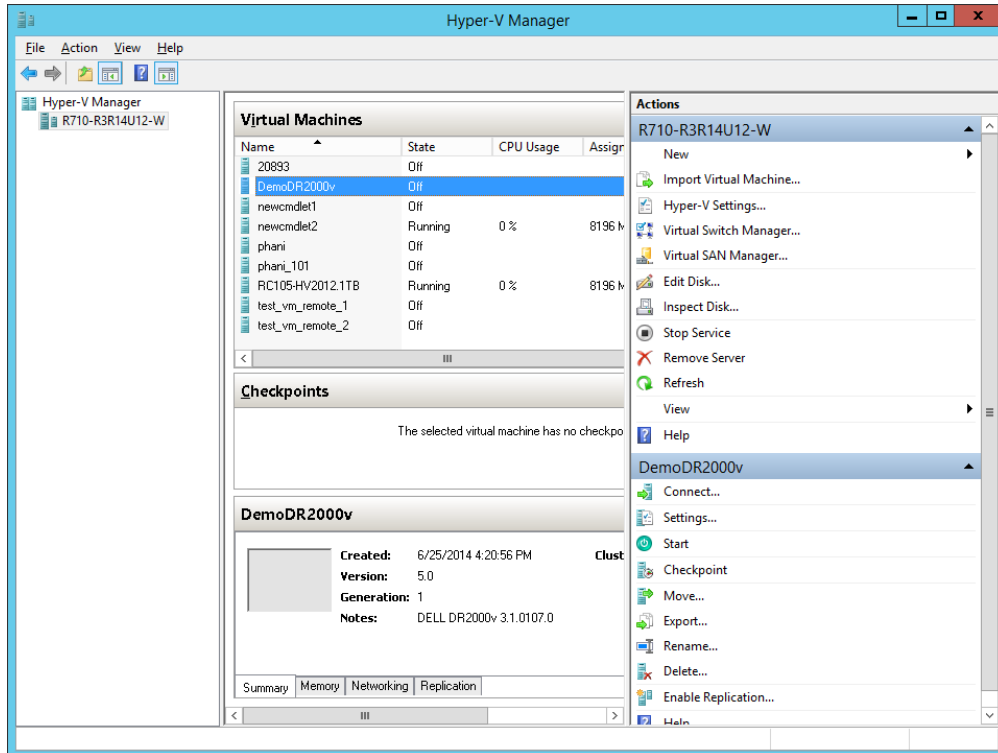


- DR2000v マシン名を入力し、<Enter> を押します。

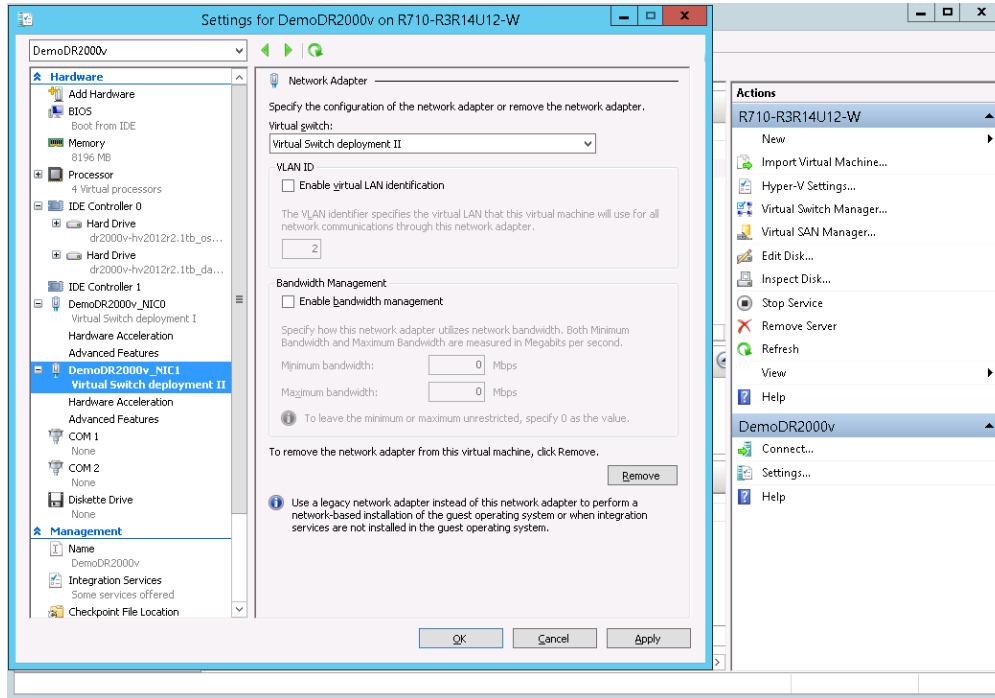


```
cmdlet New-DR2000v at command pipeline position 1
Supply values for the following parameters:
(Type !? for Help.)
Name: DemoDR2000v
Starting Deployment of a DR2000v with Name DemoDR2000v
Creating a New DR2000v.....Successful
Processing DR2000v Image.....Successful
Configuring the new DR2000v.....Successful
The DR2000v DemoDR2000v has been created successfully
PS Z:\Downloads\FrankSun\DR2000v-HV2012R2.1TB>
```

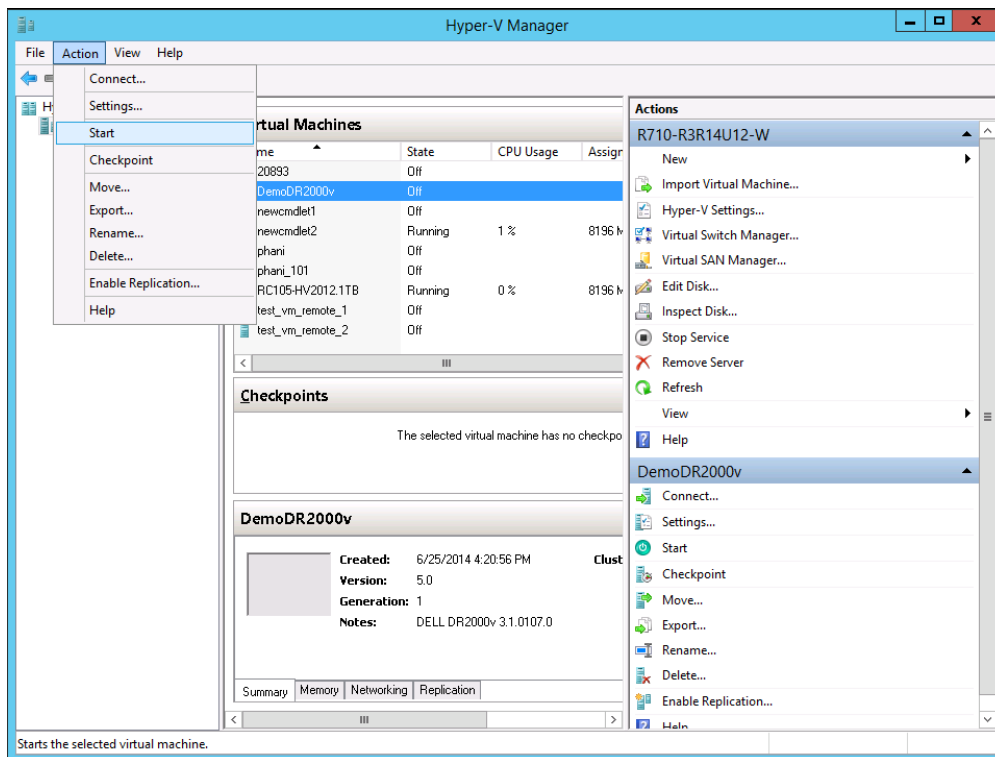
- PowerShell ウィンドウを終了します。Hyper-V Manager に新しい DR2000v VM が作成されます。



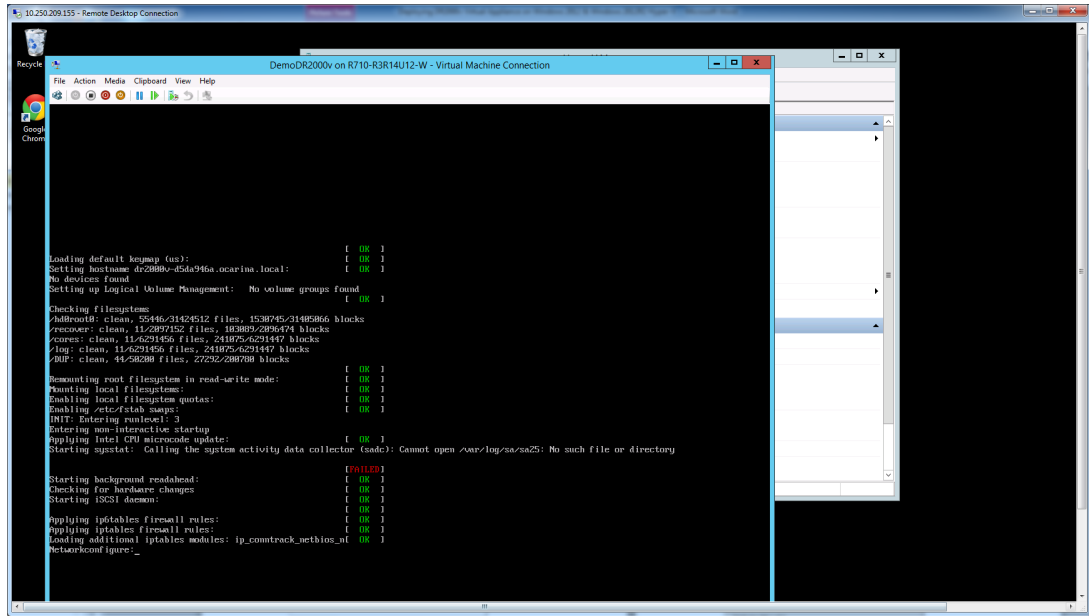
8. Action(アクション)パネルで DR2000v VM を選択し、**Settings**(設定)をクリックします。**Settings for [VM\_Name] on [Host]**([Host] 上の [VM\_Name] 向けの設定)ダイアログが表示されます。DR2000v NIC0 および NIC1 を適切な仮想スイッチに割り当て、**Apply**(適用)をクリックします。



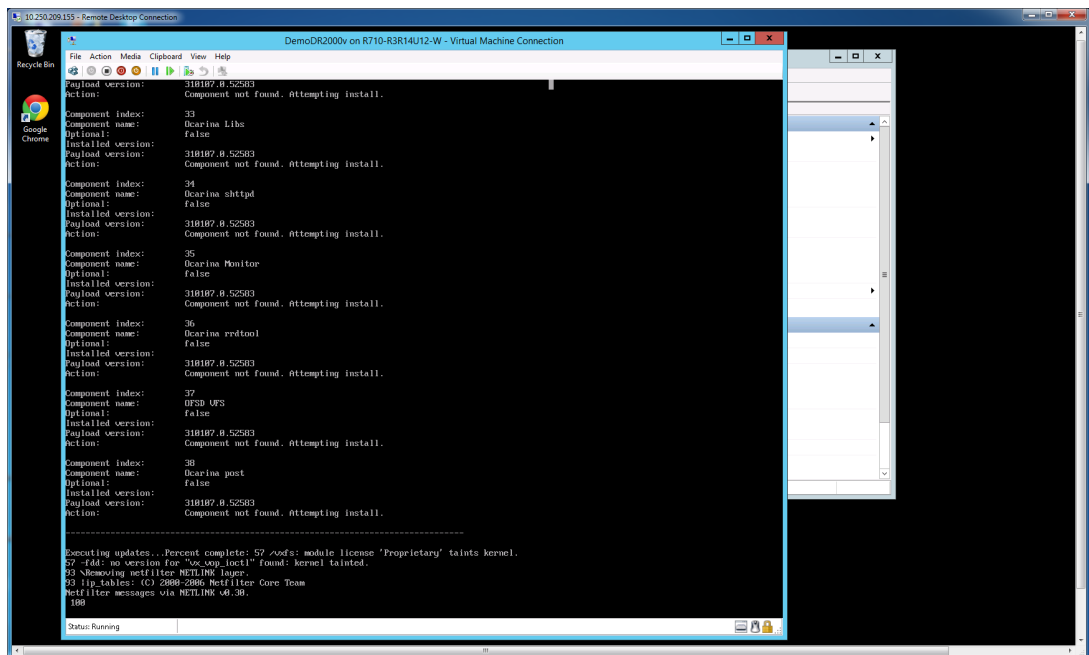
9. DR2000v VM を選択し、**Action**(アクション)メニューで **Start**(開始)を選択します。(または、選択した VM を右クリックして **Start**(開始)を選択します。)



10. **Action**(アクション)メニューで **Connect**(接続)を選択します。(または、VM を右クリックして **Connect**(接続)を選択します。)コンソールウィンドウが開きます。仮想マシンがすべてのモジュールを抽出して自動的にインストールします。この処理には最大 45 分かかる場合があります、システムが数回自動的に再起動します。



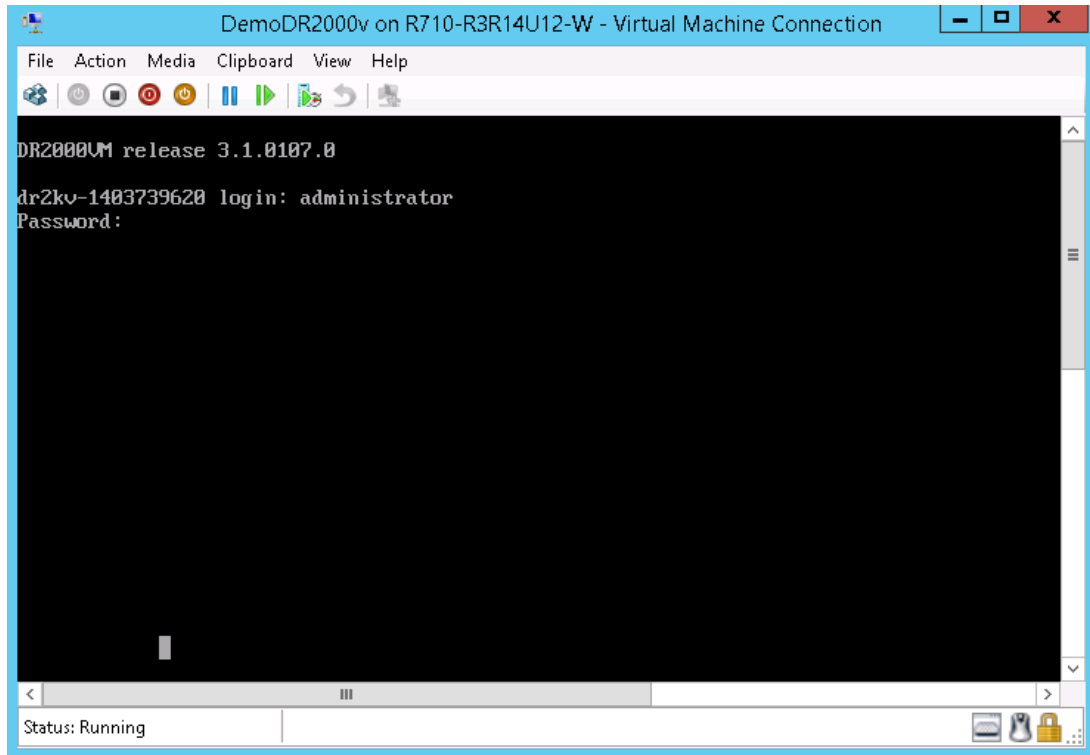
画面に FAILED(失敗)メッセージがいくつか表示される場合がありますが、仮想マシンはデフォルトで、IP を自動で取得するために DHCP サーバーを探すことから、これは正常であり、予期される動作です。



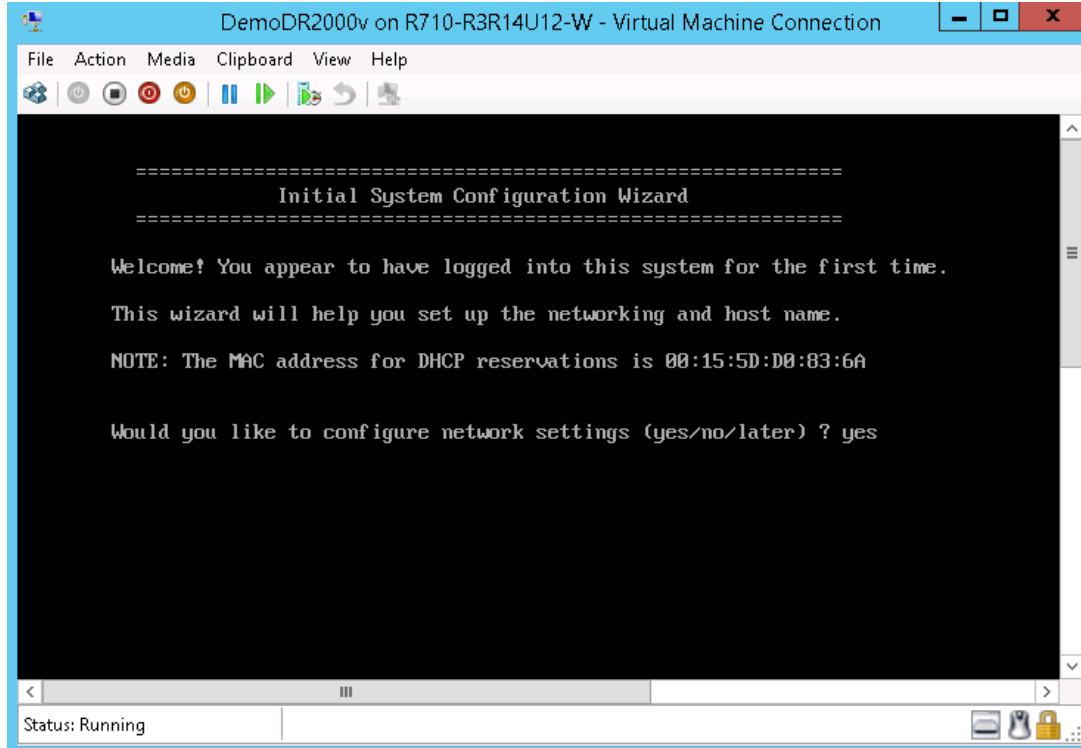
## 2.1 DR2000v の初期セットアップと設定

11. インストールの完了後、次の資格情報を使用して DR2000v 仮想マシンにログオンします。

ユーザー名: Administrator、パスワード: St0r@ge!



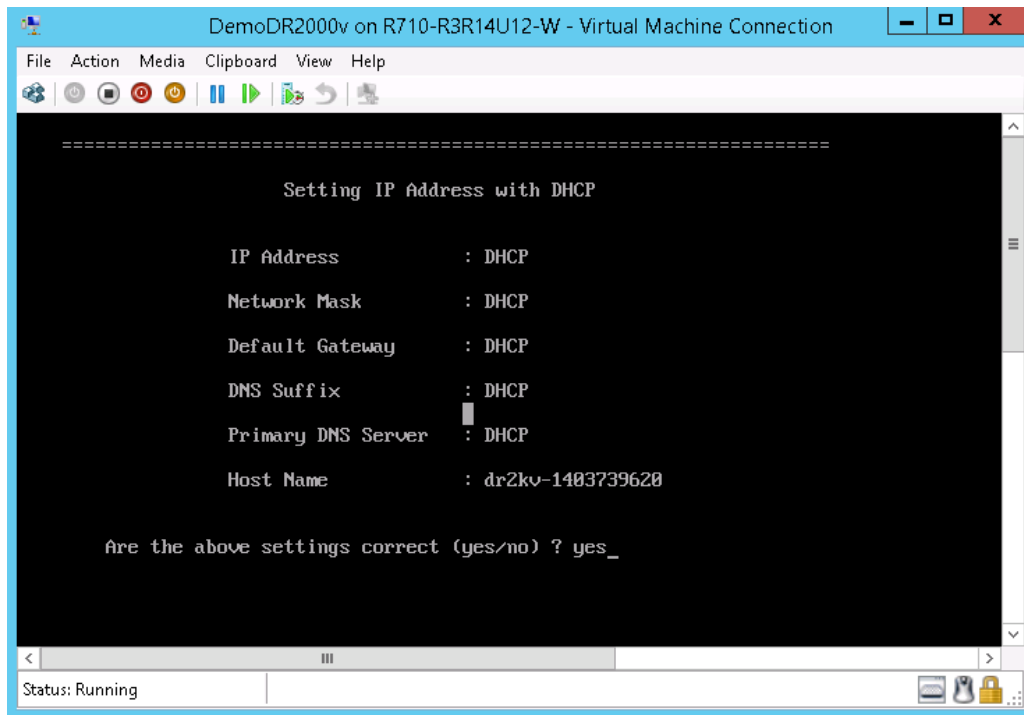
12. 初期システム設定ウィザードに進むには、**yes** と入力します。



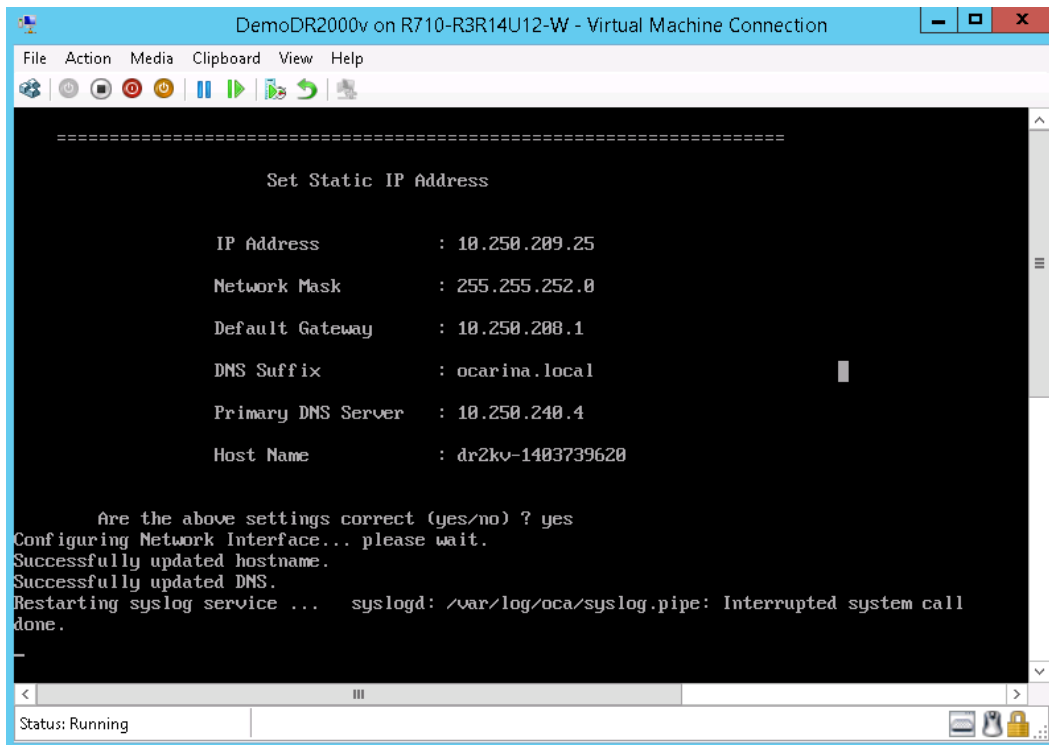
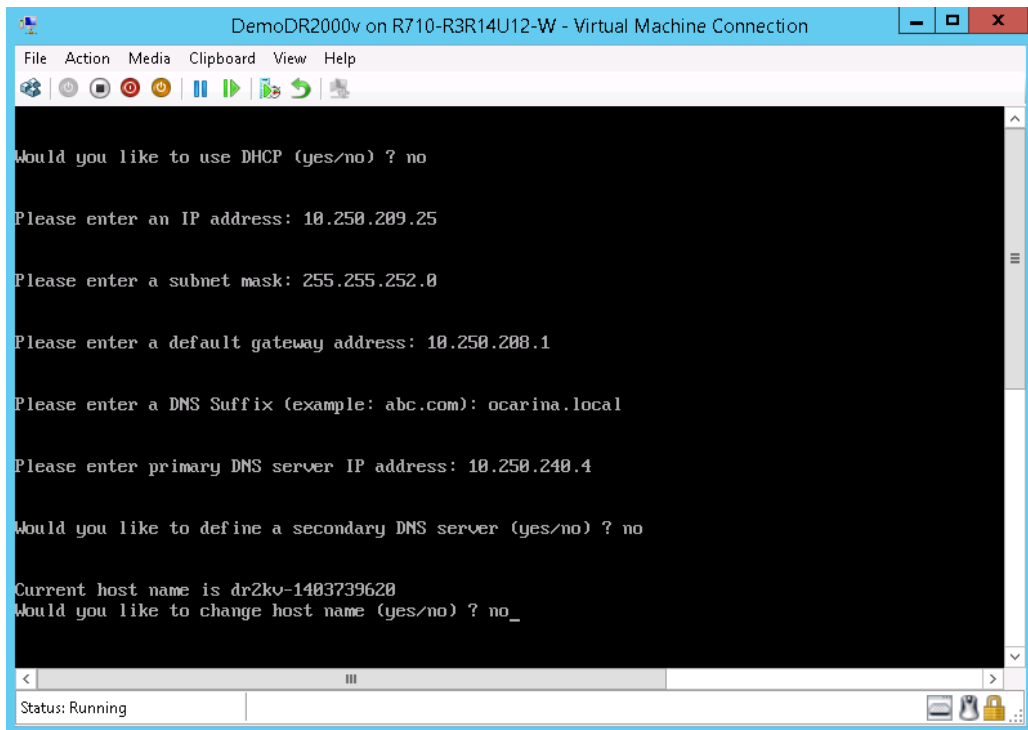
13. プロンプトに従って、必要なエントリのすべてを設定し、構成設定を確認します。静的設定を使用する場合は、すべてのエントリを手動で入力する必要があります。



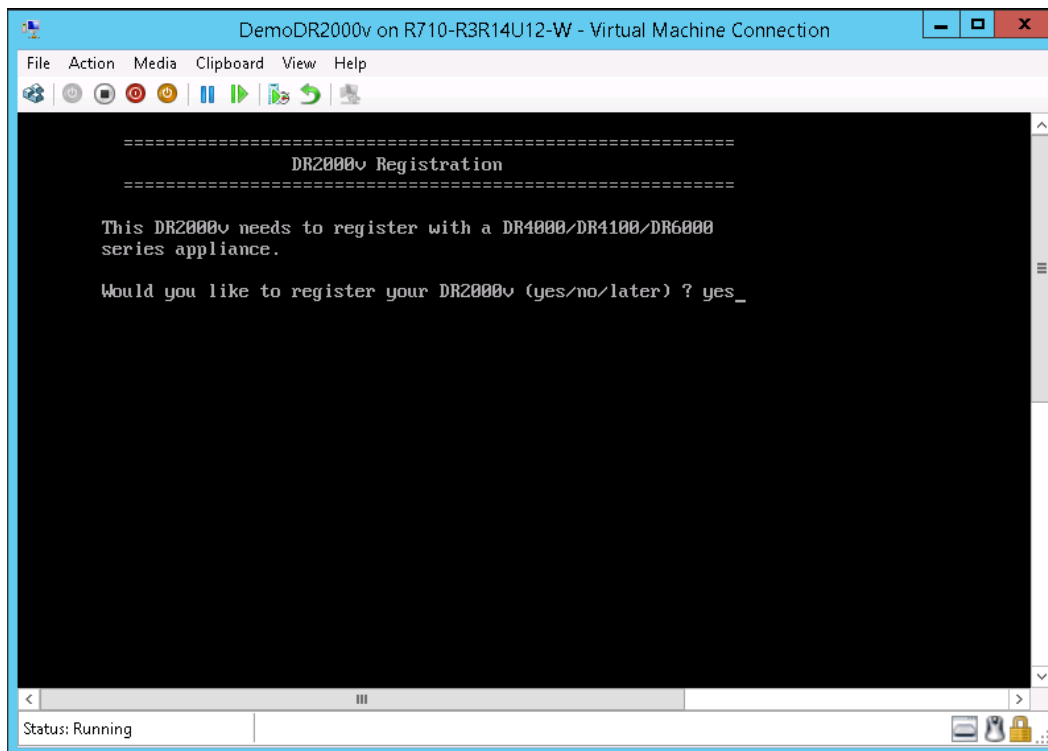
DHCP を使用する:

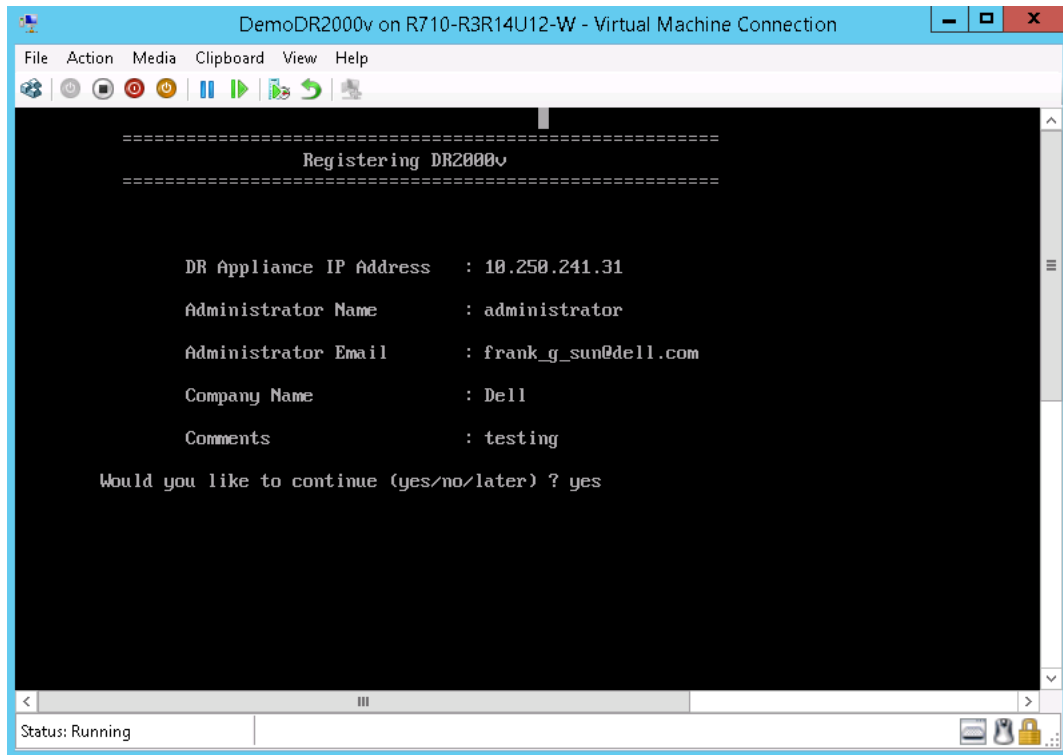
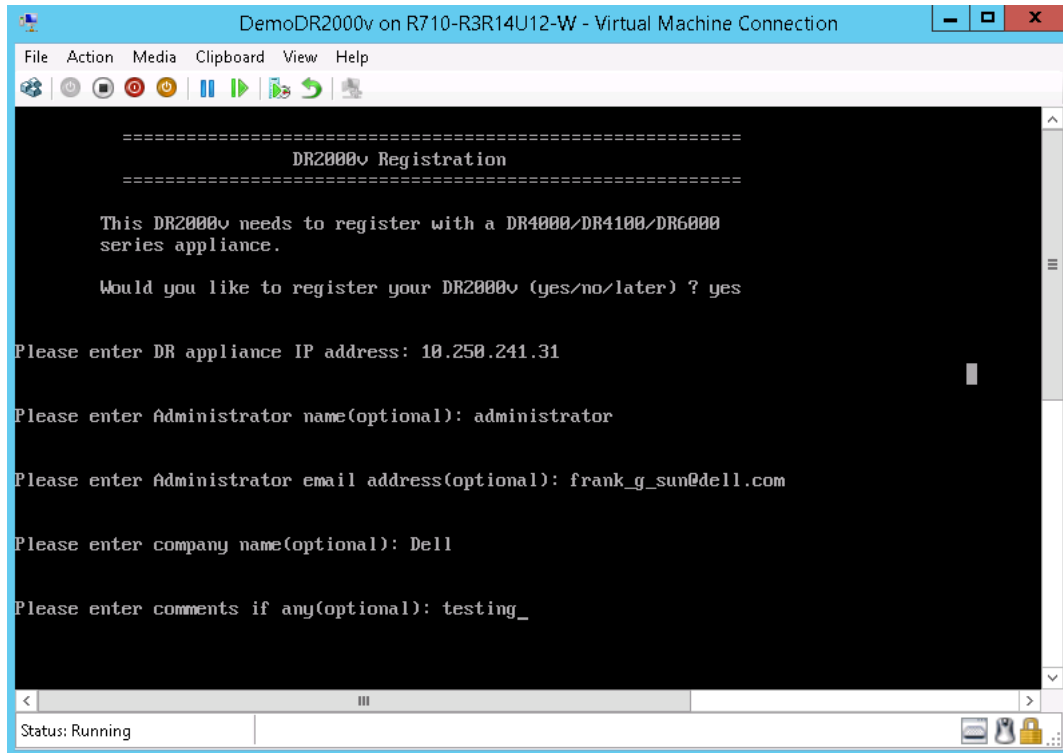


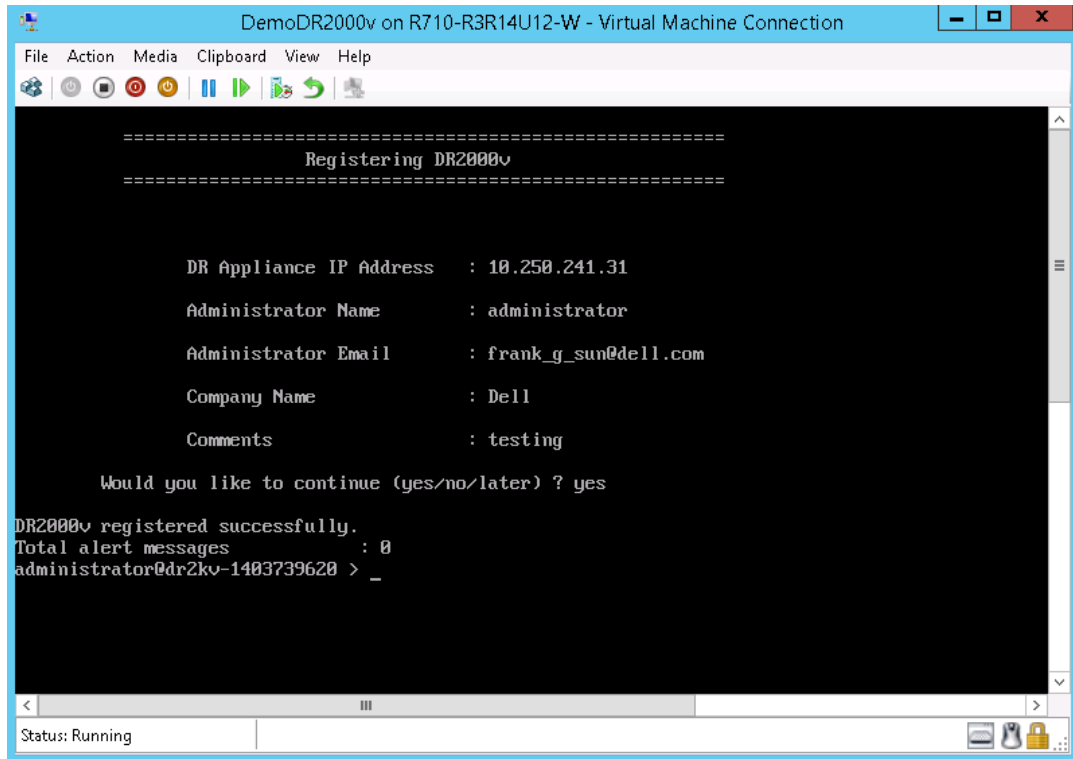
静的 IP を使用する:



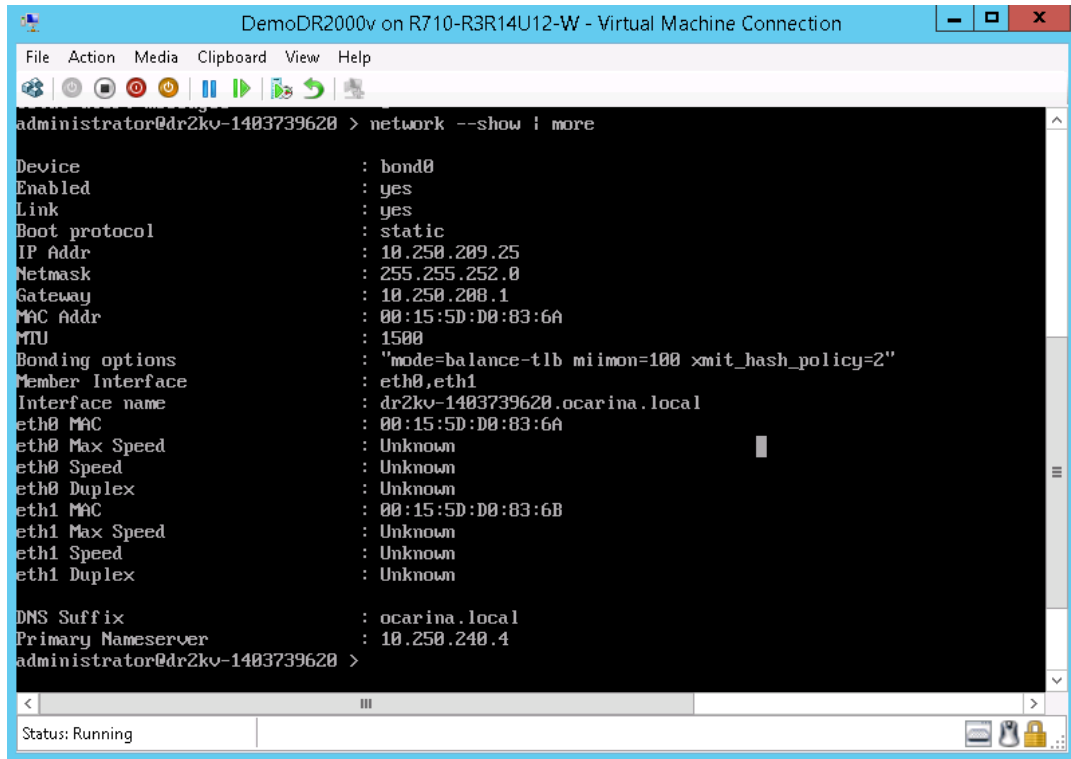
VM は、VM を管理することになる物理 DR Series システムへの登録プロセスを含む初期設定を実行します。これには完了に最大 10 分かかる場合があります。デルに DR2000v を登録するオプションも提供されます。このプロセスは、次のスクリーンショットで説明されています。







14. 仮想システムの IP アドレスがわからない場合は、コマンド **network-show | more** を実行して bond0 の IP アドレスをメモします。次の例では、このアドレスは 10.250.209.25 です。



```
administrator@dr2kv-1403739620 > network --show | more
Device                : bond0
Enabled               : yes
Link                  : yes
Boot protocol         : static
IP Addr               : 10.250.209.25
Netmask               : 255.255.252.0
Gateway               : 10.250.208.1
MAC Addr              : 00:15:5D:D0:83:6A
MTU                   : 1500
Bonding options       : "mode=balance-tlb miimon=100 xmit_hash_policy=2"
Member Interface      : eth0,eth1
Interface name        : dr2kv-1403739620.ocarina.local
eth0 MAC              : 00:15:5D:D0:83:6A
eth0 Max Speed        : Unknown
eth0 Speed            : Unknown
eth0 Duplex           : Unknown
eth1 MAC              : 00:15:5D:D0:83:6B
eth1 Max Speed        : Unknown
eth1 Speed            : Unknown
eth1 Duplex           : Unknown

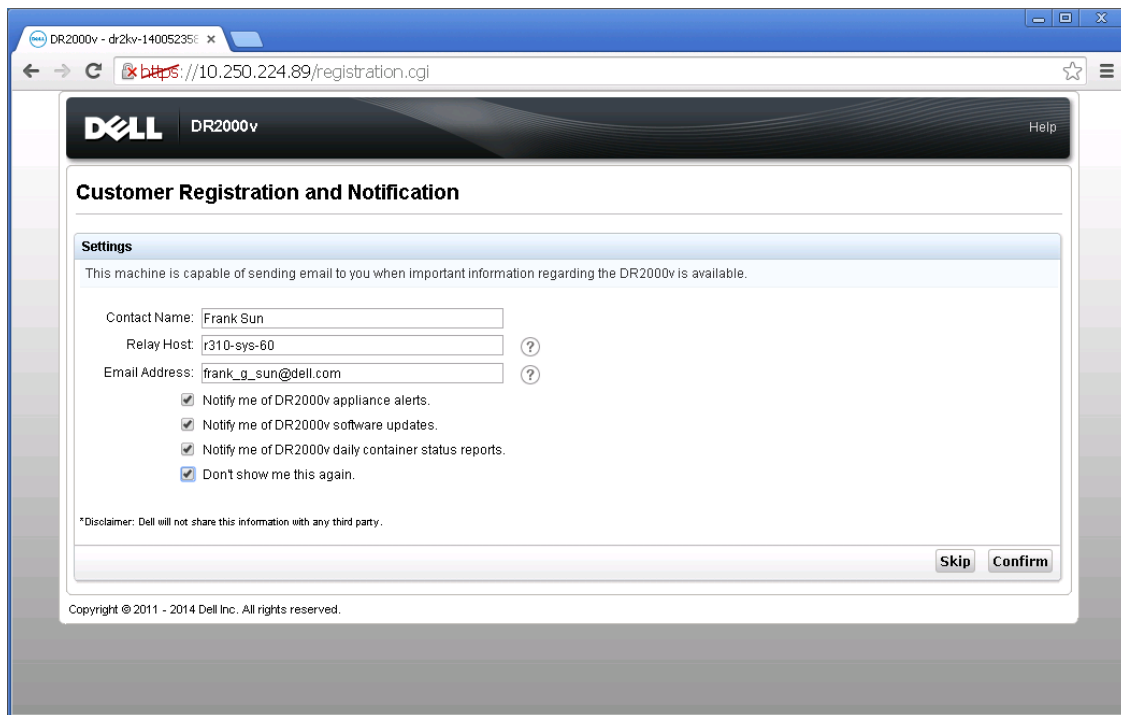
DNS Suffix             : ocarina.local
Primary Nameserver    : 10.250.240.4
administrator@dr2kv-1403739620 >
```

15. この bond0 IP アドレスを使用して、次の資格情報で GUI DR2000v にアクセスします。  
**administrator/St0r@ge!**



## 2.3 物理 DR Series システムへの DR2000v の登録

16. **Customer Registration and Notification** (カスタマー登録と通知) ページで登録情報を入力してから **Confirm** (確認) をクリックします。この手順は、取り付けられているすべての DR Series システムで行うことをお勧めします。



The screenshot shows a web browser window with the URL `https://10.250.224.89/registration.cgi`. The page title is "Customer Registration and Notification" and it features the Dell logo and "DR2000v" branding. The main content area is titled "Settings" and contains the following information:

This machine is capable of sending email to you when important information regarding the DR2000v is available.

Contact Name:

Relay Host:  ?

Email Address:  ?

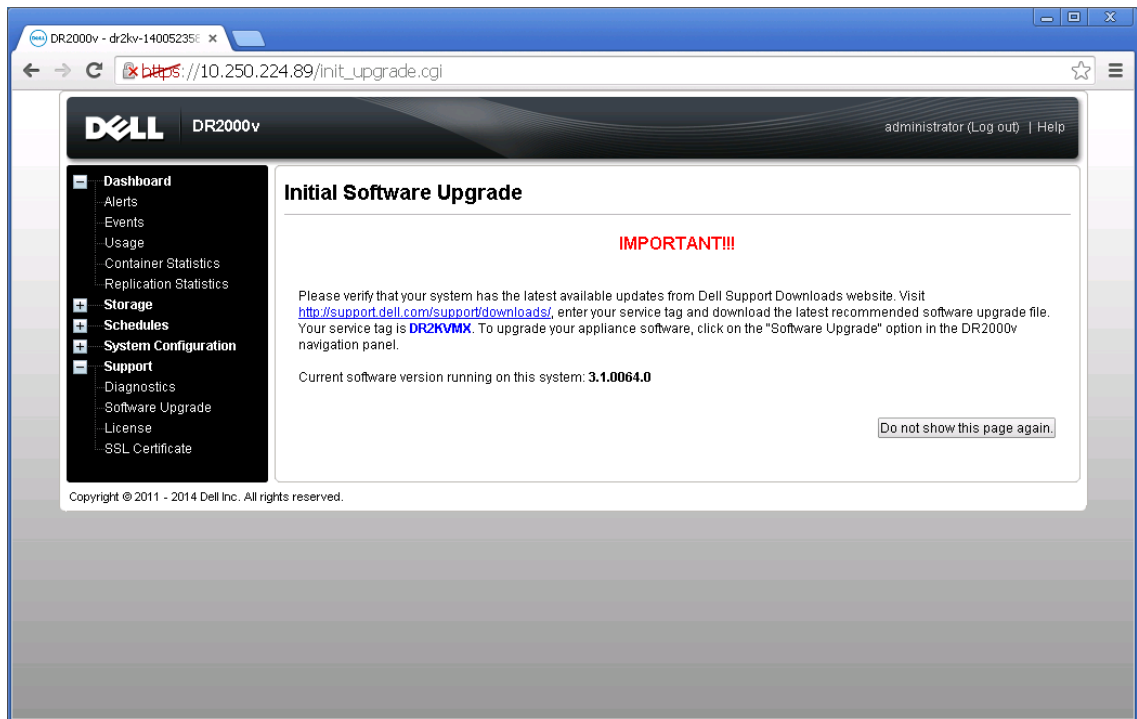
- Notify me of DR2000v appliance alerts.
- Notify me of DR2000v software updates.
- Notify me of DR2000v daily container status reports.
- Don't show me this again.

\*Disclaimer: Dell will not share this information with any third party.

Buttons:

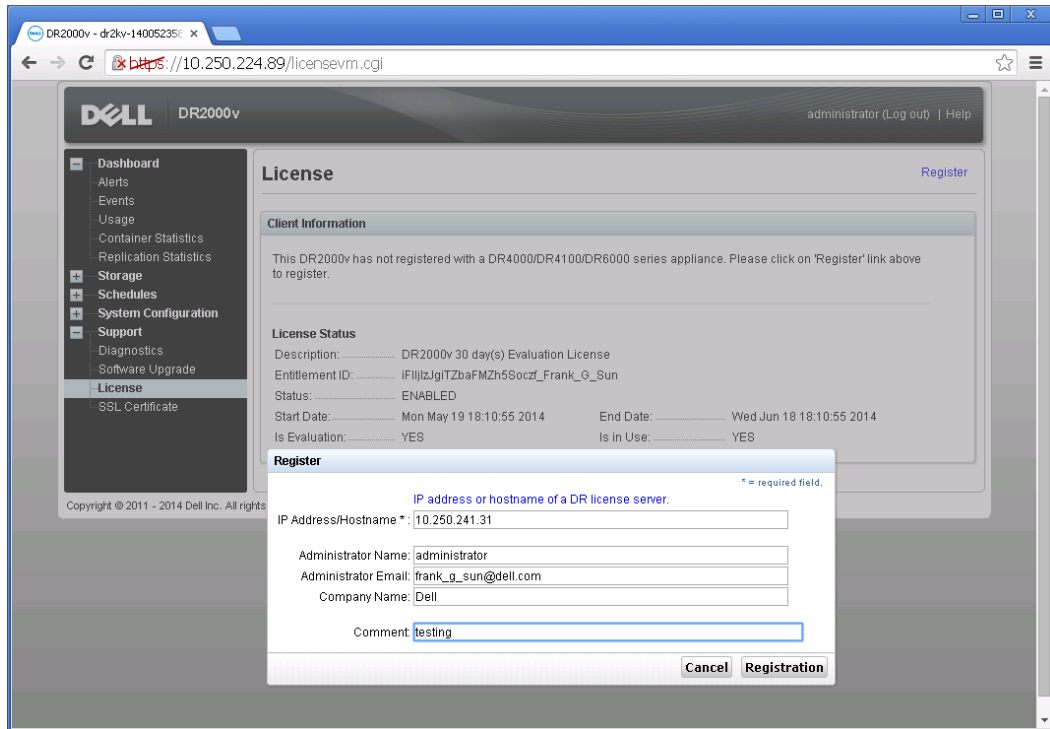
Copyright © 2011 - 2014 Dell Inc. All rights reserved.

ライセンスが正常にインストールされると、使用可能な最新のソフトウェアアップデートがあるかどうかを確認するための **Initial Software Upgrade** (初期ソフトウェアアップグレード) ページが表示されます。

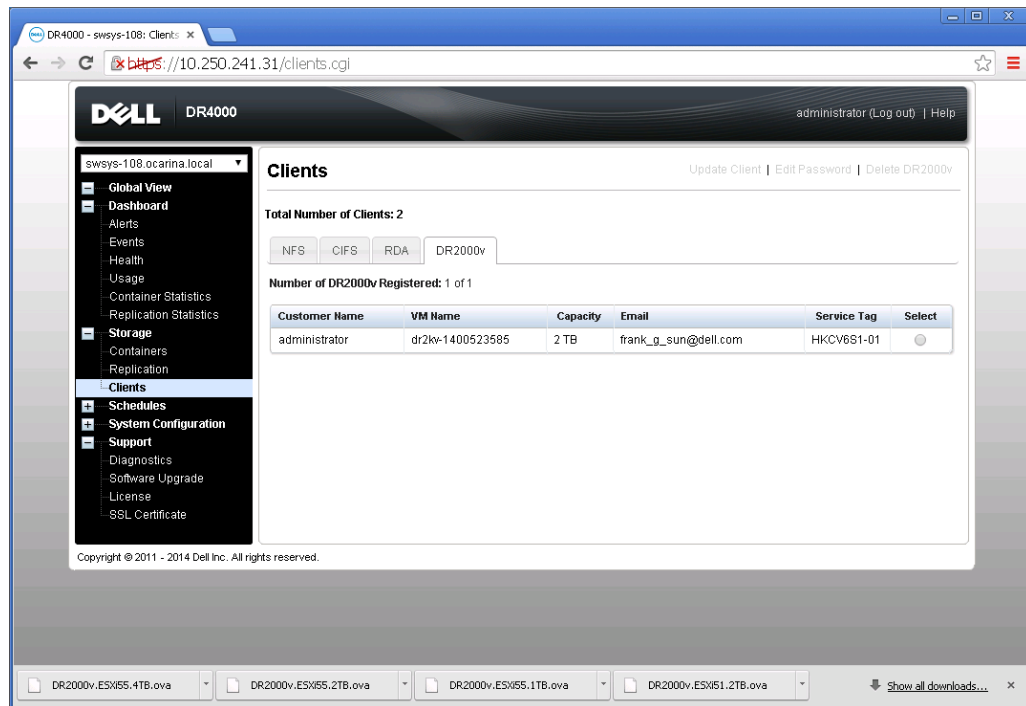




17. 物理 DR Series システムを登録するには、DR2000v GUI にアクセスします。**License**(ライセンス)ページで **Register**(登録)をクリックし、物理 DR Series システムの詳細情報を入力します。



18. 登録が正常に行われたら、次の例にあるように、GUI の **Storage**(ストレージ)> **Clients**(クライアント)> **DR2000v** 下に登録された DR2000v が表示されます。



これで、DR2000v の使用準備が整いました(ファームウェアのアップグレードを選択するかどうかは問いません)。



バックアップソリューションを設定するには、お使いのバックアップソフトウェアに適切なホワイトペーパーを参照してください。それらのホワイトペーパーは、次の URL で参照できます。

<http://www.dell.com/support/home/us/en/04/product-support/product/powervault-dr2000v>

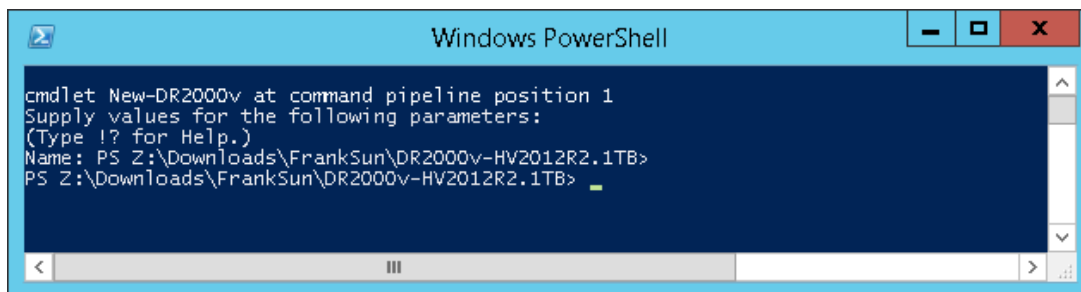


### 3 リモート Hyper-V ホストでの導入

リモート Hyper-V ホストでの DR2000v の導入手順は、前項で説明した ローカル Hyper-V ホストでの導入に似ています。異なる点を次の手順で説明します。

前項の手順 6 で、仮想マシン名を発行するかわりに、<Ctrl+C> を押して PowerShell コマンドレットインタフェースを起動し、次の手順に従って導入する必要があります。

1. 前項の **手順 6** までの手順に従って、**Windows PowerShell** ウィンドウを起動します。
2. **Name** (名前) を求められたら、<Ctrl+C> を押してバッチスクリプトを終了します。

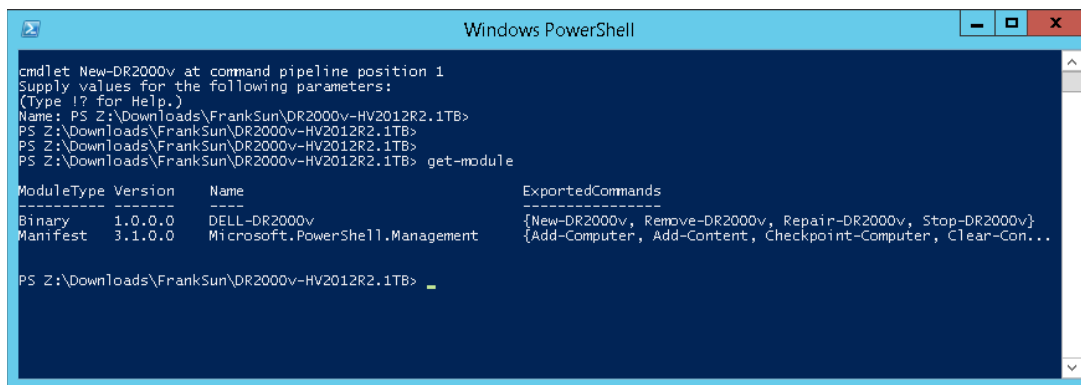


3. 使用可能なコマンドレットをリストするには、次のコマンドを実行します。

#### Get-Module -Name DELL-DR2000v

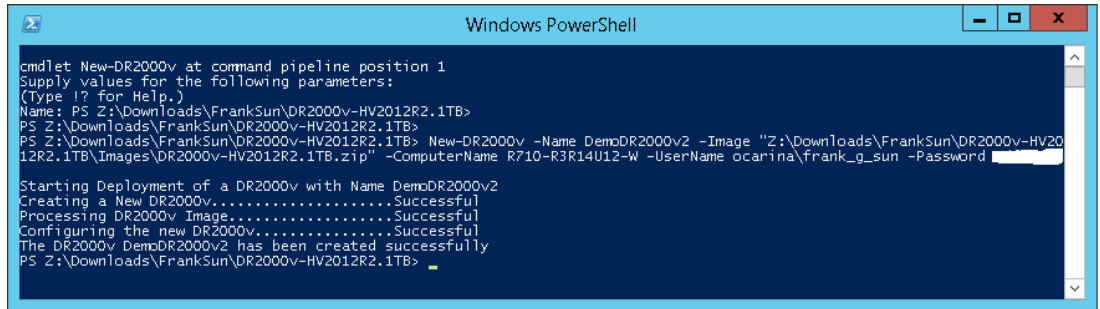
現在のリリースは、次のコマンドレットをサポートします。これらのコマンドレットそれぞれの詳細については、付録 A を参照してください。

- New-DR2000v
- Remove-DR2000v
- Repair-DR2000v
- Stop-DR2000v



4. 次のコマンドを実行して、リモート Hyper-V ホストに DR2000v を導入します。

**New-DR2000v -Name [Name\_of\_DR2000v] -Image [Image\_Path] -ComputerName [Remote\_Hyper-V\_host] -UserName [Hyper-V\_Host\_Admin\_User] -Password [Password]**



```
Windows PowerShell

cmdlet New-DR2000v at command pipeline position 1
Supply values for the following parameters:
(Type !? for Help.)
Name: PS Z:\Downloads\FrankSun\DR2000v-HV2012R2.1TB>
PS Z:\Downloads\FrankSun\DR2000v-HV2012R2.1TB>
PS Z:\Downloads\FrankSun\DR2000v-HV2012R2.1TB> New-DR2000v -Name DemoDR2000v2 -Image "Z:\Downloads\FrankSun\DR2000v-HV2012R2.1TB\Images\DR2000v-HV2012R2.1TB.zip" -ComputerName R710-R3R14U12-W -UserName ocarina\Frank_g_sun -Password ██████████

Starting Deployment of a DR2000v with Name DemoDR2000v2
Creating a New DR2000v.....Successful
Processing DR2000v Image.....Successful
Configuring the new DR2000v.....Successful
The DR2000v DemoDR2000v2 has been created successfully
PS Z:\Downloads\FrankSun\DR2000v-HV2012R2.1TB>
```

5. 前項の 手順 7 に進み、導入と設定を完了します。



## 4 DR Series システムクリーナのセットアップ

通常の操作またはファイル維持ポリシーの結果としてファイルが削除されたシステムコンテナからディスク容量を回復する方法には、スケジュールされたディスク容量再利用操作の実行が推奨されます。

クリーナはアイドル時間に実行されます。お使いのワークフローにアイドル時間が毎日十分にない場合、クリーナをスケジュールして、予定時間にクリーナが強制的に実行されるようにすることを考慮してください。

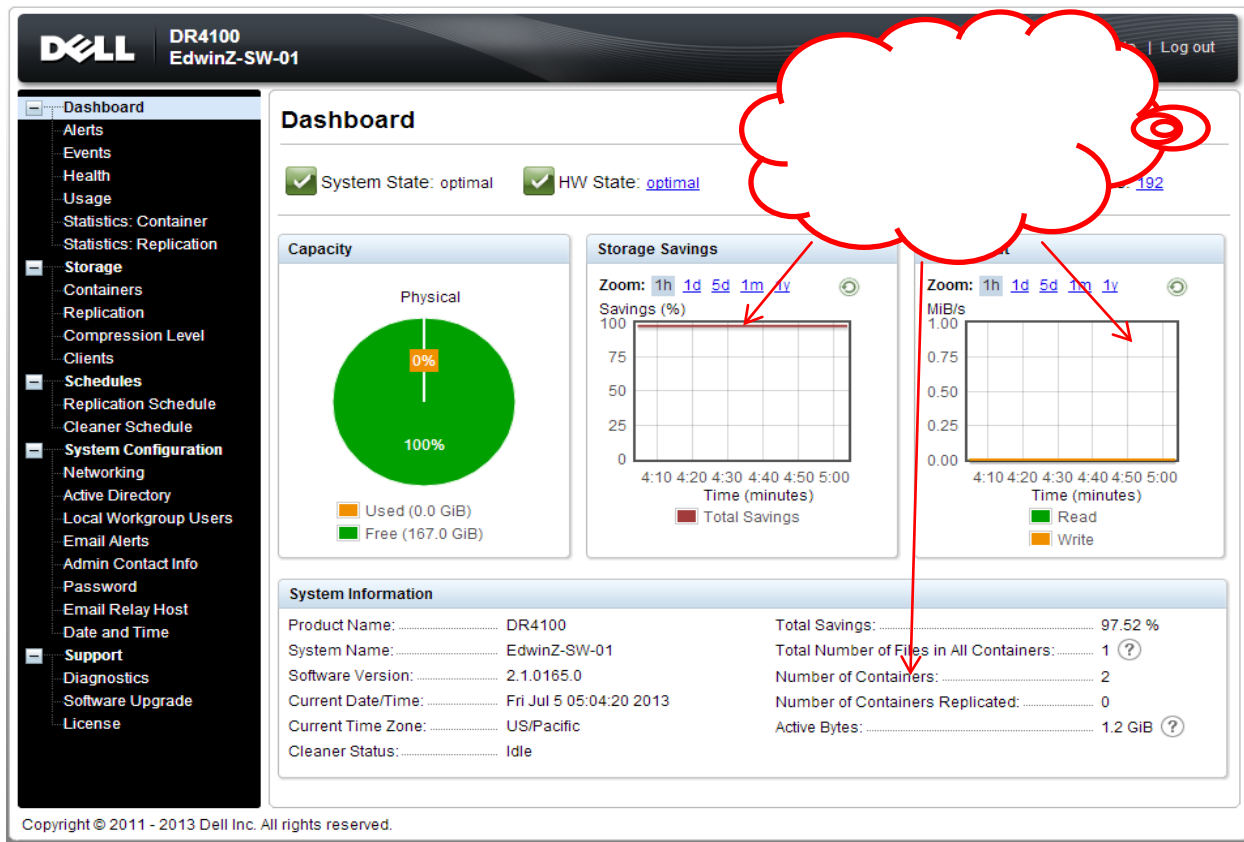
必要に応じて、次のスクリーンショット例に示されている手順を行って、強制的にクリーナを実行することができます。すべてのバックアップジョブをセットアップした後で、DR Series システムクリーナをスケジュールすることができます。DR Series システムクリーナは、毎週少なくとも 6 時間、バックアップが実行されていないとき (通常はバックアップジョブ完了後) に実行する必要があります。

Copyright © 2011 - 2013 Dell Inc. All rights reserved.

## 5 重複排除、圧縮、およびパフォーマンスの監視

バックアップジョブの完了後、DR Series システムは、DR Series システムダッシュボードで容量、ストレージ節約率、およびスループットを追跡します。この情報は、DR Series システムのメリットを理解するために役立ちます。

**メモ:** 重複排除率は時間の経過とともに増大し、最初のバックアップと比べて 2~4 倍減(節約合計の 25~50%)になることも珍しくありません。完全バックアップジョブが完了するたびに、この比率が増大します。多くの場合、12 週間保持のバックアップジョブでの平均は 15 倍減です。



## A サポートされているコマンドレット

本付録では、Hyper-V 用 DR2000v 向けに現在サポートされているコマンドレットについて説明します。これらのコマンドレットは、次のとおりです。

- New-DR2000v
- Remove-DR2000v
- Repair-DR2000v
- Stop-DR2000v

これらのコマンドレットは、すべてバイナリモジュール DELL-DR2000v.dll および DELL-DR2000v.psd1 に含まれています。この .dll および .psd1 ファイルは、解凍されたインストールパッケージの「bin」フォルダにあります。

これらのコマンドレットの構文詳細については、次の副項を参照してください。





## A.1 コマンドレット:New-DR2000v

### 目的:

新しい DR2000v 仮想マシンを作成します。

### 構文:

```
New-DR2000v -Name <DR2000v Name> -Image <absolute path to DR2000v Image zip>  
[-ComputerName <VMHost Name>] [-UserName <username> -Password <password>]
```

### パラメータ:

- 名前: DR2000v 名を指定します。
- イメージ: DR2000v ベースイメージファイルの UNC パスの場所を指定します。PowerShell では、これによって UNC パス `$env:DR_ImagePath` が提供されます。例:

```
New-DR2000v -Name DR2000v-New -Image $env:DR_ImagePath
```

- コンピュータ名: Hyper-V サーバー名、ホスト名、または FQDN を指定します。
- オプションのパラメータです。指定しない場合は、ローカルホスト名が使用されます。
- ユーザー名: ユーザー名を指定します。
  - オプションのパラメータです。指定しない場合、コマンドレットは現在のユーザーコンテキストで実行されます。
- パスワード: パスワードを指定します。
  - オプションのパラメータです。指定しない場合、コマンドレットは現在のユーザーコンテキストで実行されます。



## A.2 コマンドレット: Repair-DR2000v

### 目的:

保存された重複排除データに影響することなく、DR2000v OS を元のファームウェアレベルに復元します。(この操作は、物理 DR Series システムでの Restore Manager の使用に相当します。)

### 構文:

```
Repair-DR2000v -Name <DR2000v Name> -Image <absolute path to DR2000v Image zip> [-ComputerName <VMHost Name>] [-UserName <username> -Password <password>]
```

### パラメータ:

- 名前: DR2000v 名を指定します。
- イメージ: DR2000v ベースイメージファイルの UNC パスの場所を指定します。
- コンピュータ名: Hyper-V サーバー名、ホスト名、または FQDN を指定します。
- オプションのパラメータです。指定しない場合は、ローカルホスト名が使用されます。
- ユーザー名: ユーザー名を指定します。
  - オプションのパラメータです。指定しない場合、コマンドレットは現在のユーザーコンテキストで実行されます。
- パスワード: パスワードを指定します。
  - オプションのパラメータです。指定しない場合、コマンドレットは現在のユーザーコンテキストで実行されます。



## A.3 コマンドレット:Remove-DR2000v

### 目的:

DR2000v 仮想マシンを削除します。

### 構文:

```
Remove-DR2000v -Name <DR2000v Name> [-ComputerName <VMHost Name>] [-UserName <username> -Password <password>]
```

### パラメータ:

- 名前: DR2000v 名を指定します。
- コンピュータ名: Hyper-V サーバー名、ホスト名、または FQDN を指定します。
- オプションのパラメータです。指定しない場合は、ローカルホスト名が使用されます。
- ユーザー名: ユーザー名を指定します。
  - オプションのパラメータです。指定しない場合、コマンドレットは現在のユーザーコンテキストで実行されます。
- パスワード: パスワードを指定します。
  - オプションのパラメータです。指定しない場合、コマンドレットは現在のユーザーコンテキストで実行されます。



## A.4 コマンドレット: Stop-DR2000v

### 目的:

仮想マシンを正常にシャットダウンします。

### 構文:

```
Stop-DR2000v -Name <DR2000v Name> [-ComputerName <VMHost Name>] [-UserName <username>]  
-Password <password>]
```

### パラメータ:

- 名前: DR2000v 名を指定します。
- コンピュータ名: Hyper-V サーバー名、ホスト名、または FQDN を指定します。
- オプションのパラメータです。指定しない場合は、ローカルホスト名が使用されます。
- ユーザー名: ユーザー名を指定します。
  - オプションのパラメータです。指定しない場合、コマンドレットは現在のユーザーコンテキストで実行されます。
- パスワード: パスワードを指定します。
  - オプションのパラメータです。指定しない場合、コマンドレットは現在のユーザーコンテキストで実行されます。

